



福鍼会だより

発行 / 一般社団法人福島県鍼灸師会

2015年
9月20日

No. 120

“第49回 東北鍼灸学会 in 仙台”が開催されました！

9月5～6日の2日間、宮城県仙台市・エルパーク仙台において第49回東北鍼灸学会が開催されました。

5日の一般研究発表は柏原修一先生(いわき市)が「1回の治療で消失した右腰下肢のしびれ」と題し発表されました。

右腰下肢のしびれに対し、少数穴の施術で愁訴が消失した症例です。太字や画像をふんだんに使い、聴講者に分かりやすく伝わりやすい発表でした。



[柏原修一先生]

今回の症例は先生が昨年参加された鍼灸臨床研修会(臨床研)の直後のものだそうです。発表の中でも触れられていましたが『臨床研で教わった通りに施術したら著効した!』とのことで、臨床研の3日間は有意義であったようです。



[鈴木暢宏先生]

一般研究発表の後、実技セッションが始まります。テーマは「腰痛」。会場にはベッドが1台用意され、腰痛についての説明と実技を各県1人40分で発表します。

福鍼会からは鈴木暢弘先生(郡山市)が「障害者の腰痛治療」と題し発表されました。

障がい者団体の顧問やパラリンピック選手のトレーナーを務めたことで障がい者の治療を担当する機会を得た鈴木先生。脳性麻痺、自閉症、骨形成不全、マルファン症候群の患者さんを例に挙げ、切皮置鍼から貫通刺まで様々なテクニックを見せていただきました。

会場からは他県の発表者よりも多くの質問と関心が寄せられ、それらに的確・丁寧に答える鈴木先生がとても頼もしく、誇らしかったです(上から目線ですいません……)。



〔 白いグランドピアノと調度品 〕

5 日の夜は江陽グランドホテルにて懇親会。とても豪華な内装(天井にはシャンデリア、白いグランドピアノと高そうな調度品の数々)のホテルに驚きつつ会場へ。出席された先生方と親睦を深めることができました。

懇親会の途中、馬頭琴(ばとうきん)奏者のモンゴル人の方がステージで演奏をしてくださいました。宮城県鍼灸師会の計らいで普段聞くことのできない音楽に触れることもできました。

懇親会が終わる少し前、来年本県で開催される第 50 回大会のアピールをさせていただきました。関根美智先生のマイクパフォーマンスと、直前に練習した『ハニーフラッシュ』ポーズがバッチリ決まり、会場は盛り上がりました！

左から 4 番目の H 先生のズボンが落ちるというアクシデント(故意?)がありました。アピールは大成功でした。

H 先生より『目隠しだけお願い』という要望がありましたので少しだけ写真を編集しております(笑)。



〔 ハニーフラッシュ！！ 〕



〔 施術中お子さんの笑顔が印象的でした 〕

翌日、6 日は特別講演「小児鍼の大人への応用」と題し、谷岡賢徳先生がご講演されました。

開場前から多くの聴講者が来場し、すぐに席が一杯になりました。聴講者の皆さんは楽しみにしていたのでしょう。

講演が始まり、早々にお子さんが来て施術開始。20 分ほどで 7 人の小児鍼を終えられました。先生の表情、言葉かけ、手さばきなど、講演開始すぐから勉強になりました。

2 日間の学術大会が無事に終わりました。来年は我々、福島県鍼灸師会が開催する番になっております。今回の宮城大会で参考になった部分、反面教師として捉える部分などが少しずつ分かってきました。これから 1 年なんてあっという間です。「理事だから、一般会員だから」ではなく、会員同士でより良い案を出しながら、充実した素晴らしい大会を作っていきましょう！ 会員のみな様のご協力をよろしくお願いいたします！

